

2学期始業式（8月29日）

皆さんおはようございます。本日より2学期がスタートします。今年の夏は、全国各地で連日猛暑日が観測され記録的な暑さとなる一方、8月には東日本、特に北陸・東北地方や北海道を中心に記録的な豪雨が甚大な災害をもたらし、多くの方が被災されました。1年前のこの時期は、島根県でも豪雨災害で多くの方が被災されたことを思い出しました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、この2学期には、大きな学校行事として10月に仁心祭、11月に邇摩高フェアが開催されます。これらの行事を皆さんにとって思い出に残るものとしてほしいと願っています。そのために皆さんひとりひとりが主体性、協働性を発揮してほしいと思います。

この主体性、協働性は邇摩高校のグランドデザインに示してあるように皆さんに身につけて欲しい資質・能力でもあります。今日は、この主体性、協働性についてお話をします。

1つ目の主体性とは、周りの意見や第3者からの指示などに頼らず、自らの判断や考えにもとづき行動することを指します。よって自分の行動に対する責任が強調されます。つまり主体性では、行動の結果がうまくいかなかったとしても、その責任は自分自身にあると判断します。そうした**主体性が身につけば、①積極的に行動できるようになる、②責任感が強くなる、③自己肯定感が強くなる、④成長意欲が高まるようになります。**

具体的に言うと、①主体性のある人は、指示される前に、今必要な行動を取ったり、先の段階で必要と考えられる行動を取ったりすることができます。仮に失敗しても、失敗を次回以降に生かせるよう、改善点をピックアップし、対策を講じるなど自ら積極的に動くことができます。

②また主体性がある人は、自らが引き受けたことや自らが考え行動したことに対して、最後まで強い責任感を持って全うします。主体性のある人が的確に行動できるのは、最後まで責任を負うからです。逆に主体性のない人は、言われてからやるため、責任を自分以外に押し付ける傾向にあります。

③自己肯定感とは、自分をかけがえのない存在として認め、自分を肯定的に受け止められる感覚のことで、自己肯定感が強いと、自分の価値を信じられるため、感情が安定し、自信を持って意欲的に取り組むことから主体的に取り組むことができます。

④そして主体性がある人は、自分のこと以外にも意欲的に取り組みます。指示を受けた内容だけでなく、成長意欲を最大限発揮して、ほかに自分にできることはないかと考え難易度の高いことにも挑戦するようになっていきます。

2つめの協働性とは、チーム内で理解や指示を得て、お互いに協力して課題に取り組む能力のことをいいます。自分の利益だけを求めるのではなく、チームのひとりひとりの能力を発揮させることが全体としての成功に繋がるといわれています。このようにチームの能力の底上げをサポートするために必要なのが協働性です。**今、社会的にリーダーシップの要素として、協働性があることが求められています。**なぜならこれからの時代を担うリーダーとして重要な素質であり、コミュニティに属するうえで必要な能力だからです。利己的にならずに、**立場の違う人々と対等に協力していくために必要な力**だと言われています。

協働性を身につけるために必要なのは、明確なゴール設定、コミュニケーション能力、そして発想を共有することです。例えば、行事の成功をゴールとし、相手の立場になって話を聞いたり、伝わりやすい話し方をしたりすることで、見いだされるひらめきや発想を共有していくことが協働するということです。

今年度の仁心祭のスローガンは『仁 ～We will never forget this memory～』、そして邇摩高フェアのテーマは、『五星一天 ～仁摩に煌めけ五つの星～』です。それらの想いに込められた願いを叶えるためにも皆さんひとりひとりの主体性、協働性の意識を高め、皆さんにとってかけがえのない思い出にしてほしいと願っています。

最後に、3年生の皆さんは、進路の受験に向けての準備はできていますか。これまでのたくさんの積み重ねをぜひ整理して、うまく自己PRできるようにしておいてください。1年生、2年生の皆さんは、自分の進路が希望通りに決まるよう今のうちから、たくさんの経験を積んでください。この経験は、きっと来年、再来年の大きなセールスポイントになると思います。

それでは、2学期の皆さんの更なる成長を期待しています。